

私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています

土浦平和の会

ニュースNO・122 2002年10月

発行 土浦平和の会
事務局 土浦市神立町2664-2
TEL 31-9122

平泉・遠野・花巻 平和の旅

中村町 村越征雄

秋澄む 恵まれた天気 土浦を後にする。私は 二日酔いで最悪のコンディションのため 出発早々車中で早朝の眠りについた。

突然 大声で起こされて ねむりまなこでぼんやりと車窓からの田園風景を眺めると そこはもう岩手県一関あたり。土浦より1ヶ月遅れの稲刈りの最盛期である。私も 今年生まれて初めて「穴塚の自然と歴史の会」の田植え 稲刈り おだ架けなどを経験して 百姓の厳しさを知らされたので 興味を持って見続けていると 田圃一面に整然と並んで立っている”おだ”が 個々に美しく生まれ すばらしい芸術である。なぜか心休まる風景である。

二日酔いもやっと醒めたところで スケジュールどおりの見学が始まる。毛越寺の伽藍は全部焼失して 往古のほんの一部が復元されているが 庭園は当時のままの姿を今に伝えている。

松尾芭蕉がこの地で詠んだ句が

夏草や つわものどもが 夢の跡

栄華を極めたであろう庭園は 大変に美しい

つぎの 中尊寺は 創建当時の 唯一の建物 ”金色堂” に展示されている全ての工芸品が国宝だが 歳月が戦乱を洗い流し 静かなたたずまいを見せていた。

今日の宿は 遠野 たかむろ水光園（農村交流センター）。トロン大浴場で疲れを流し眠りについた。二日目の朝6時 気分爽快に起床。朝風呂に入り汗を流す。朝食のあと 宿の広い庭園を散歩して曲がり家 民具館 芸能館などを見学し 二日目の見学へと出発。最初の見学は伝承園 続いて ふる里村 ここは体験学習もできる広大な田園風景が広がる。語り部が遠野民話を話してくれる。そして花巻へ。

科学者であり芸術家 哲学者の宮沢賢治の記念館へと入り 展示された生の原稿を夢中で読んでみると 童話の世界に引きずり込まれていくのに驚かされる。貧しい農村を豊にしようと努力したり 不思議な童話ができたり。賢治の世界は奥が深い。

現実に戻ると ブッシュ米大統領は イラン攻撃へと進んでいるし 小泉首相は有事法案を強行採決して 自衛隊を米軍の弾よけにしようとしている。この落差は何だろう。

帰路の車中はメルヘンの世界の夢見ながら深い眠りに入ってしまった。

幹事さんお世話になりました。厚くお礼申し上げます。



“たかむろ水光園” 曲がり家”

有事法案反対署名

を早急に集めよう

行事ごよみ

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 9・25 平和を求める市民連絡会（神立コミセン） | 10・5～6 平和ツアー（岩手） |
| 9・26 平和の会理事会（神立コミセン） | 10・16 平和委員会常任理（水戸市民会館） |
| 10・1 平和を求める市民連絡会（神立コミセン） | 10・17 平和の会理事会（神立コミセン） |

土浦平和の会

ニュースNO・122 2002年10月

岩手県遠野、花巻・平和の旅に参加して

6月30日土浦母親大会、7月27日・28日日本母親大会、8月25日茨城県母親大会、そして財政整理と立て続けに忙しい日程をこなしてきた。心身共に疲れて一休みしたいと思っていた時に、「平和の旅」のお誘いを受け飛びついた。土浦母親大会で講演をお願いした児玉房子さんが、遠野に住んでいて田を耕し、稲を作り、野菜を作りながら生活していて、「遠野はいい所よ」と聞いていたので興味もあった。期待は裏切られなかった。

土浦からバスで6時間の旅は少々疲れたが、その日の宿泊地「たかむろ水光園」は素晴らしかった。広い庭園の中に清らかな水が流れ込む大きな池があり、水車が回っている。農耕民具館、暮らしの民具館には驚くほど多くの江戸時代、明治時代の民具が集められていた。商家土蔵、酒造り資料館、芸能館と回っているうちに、科学の進んだせせこましい日本ではなく、何故か懐かしい昔に帰った気分になってきたのは不思議だった。そしてその思いは2日目の行程中私の心の中で続いていた。

「伝承園」「遠野ふるさと村」は馬を大事にし、馬と共に住んだ「曲り家」が沢山集めてられ、昔ながらの山里の文化が保護されていた。そしてトンボが飛び小鳥のさえずりがあふれる木立ちの中を歩いていると、日々の忙しさを忘れリラックスしている自分に気づいた。それは花巻の「宮沢賢治記念館、童話村」でも同じだった。宮沢賢治の科学者であり、芸術家であり、貧しい農民のために稲作指導にも力を尽くした教育者でもあった姿にもふれ、その偉大さと、童話村での銀河の世界や、あふれるばかりの自然を心ゆくまで味わい、感じとることができた。

遠野が故郷だという久保田さんが「遠野は何もない所だ」と繰り返していたが、そんなことはない。基地や戦史跡を訪ねる

「平和の旅」ではなかったが、心の中に十分に「平和」を与えてくれた素晴らしい旅であったと思う。「遠野ふるさと村」で農家の方が作った農産物や花、花木が売られていたが、私は真っ赤に色づいた「花とうがらし」を買ってきた。後日それを「絵手紙」に書き、旅の思い出として残しました。



久松 一枝